

「子育てしやすい県営住宅」に向けた意見交換会 議事概要

日 時 令和6年1月29日(月) 11:30~12:00

場 所 県営尼崎大庄住宅 (尼崎市蓬川町 331-4)

出席者 兵庫県知事 齋藤 元彦

尼崎市長 松本 眞

尼崎市在住の子育て世帯 3名

尼崎市子育てサークル実行委員会 2名

コーディネーター 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授 檜谷 美恵子

①県営住宅について

【知事】

- ・若者・Z世代応援パッケージの一つとして住宅政策を重視している。
- ・住宅の購入費用が高騰するなかで、県営住宅は家賃も比較的抑えられているので尼崎市に住むきっかけにして欲しいと考えている。
- ・県営住宅を選んでもらうためにも、本日視察したような子育て世帯向けのリノベーションを進めたい。

【子育て世帯】

- ・これまで持っていた県営住宅のイメージよりも綺麗になっていて驚いた。
- ・段差やデッドスペースも解消されており、子育てがしやすいと感じた。
- ・収納も多く、特に大きなシューズボックスは成長とともに靴が増えることにも対応できていると感心した。
- ・室内干しの設備は雨の日でも安心。
- ・LDK化でキッチンから室内が見渡せることは子育てにおいて安心感がある。
- ・家賃の安さも魅力的で、かつてこのような住宅があれば申し込んでいた。
- ・外観によりイメージを得ることは多く、外観で対象外にすることもある。
- ・公営住宅は子どもの足音などが近隣に響くというイメージがあり、少し抵抗がある。
- ・倍率が高く、応募しても無理という気持ちもある。

②尼崎市の住環境について

【尼崎市長】

- ・尼崎市は交通の利便性が高く、単身用の賃貸住宅は多い一方で、家族向けの住宅が少ないというアンケート結果があり、せっかく尼崎市に来てくれた方が他府県に出て行ってしまうのは惜しいと思っている。

【子育て世帯】

- ・電車が3線通っていて交通の便がよく、梅田や三宮へ出かけやすい。
- ・尼崎市は平坦であるため、自転車での移動が容易。
- ・スーパー、病院、銀行など何でも揃うため住むには大変便利。
- ・徒歩圏内にも図書館や公園が充実しており、気候が穏やか。

- ・周りの子育て世帯からは、子どもが大きくなると広めのマンションを探し始めるが供給が少ないという話を聞く。
- ・利便性が高いが故に自宅から大学に通学する子どもが多いため、そこまで見込んで大きめの家が欲しいと思っておられる子育て世帯も多くいる。

③まとめ

【知事】

- ・若いうち、子どもが小さいうちは家賃の安い公営住宅で資金を貯め、例えば10年後に状況に応じて広い住宅に住み替えてもらい、その公営住宅に次の若い子育て世帯が入るようなサイクルを期待している。
- ・県営住宅のイメージと違うという意見があった。外観と中身のギャップがあり、外観で県営住宅を対象外とされているなら、中身の良さをPRしなければならない。また外観を綺麗にすることも重要かもしれない。
- ・子どもの騒音を気にする意見があった。子育て世帯が多く入居すれば自治会やコミュニティも活性化するし、その支え手が来てくれるということで理解が深まることも期待している。
- ・県営住宅をきっかけとして定住してもらいたい。そのため安全安心な地域づくりにも努める。

【尼崎市長】

- ・子育て世帯に選択されるように教育面などの整備は行いながら、まずは尼崎市に住宅を確保するという点から県営住宅で子育て世帯向けの改修を行ってもらったというのは良い一歩であると考えている。